

熊谷市戦没者戦災死没者追悼式



※写真提供 熊谷市

開催概要 (平成22年度)

歳時名：熊谷市戦没者戦災死没者追悼式
 会場：埼玉県熊谷会館
 (JR熊谷駅 徒歩15分)
 日時：平成22年10月13日(水) ※例年10月頃開催
 参列者数：496人
 連絡先：熊谷市福祉部福祉課 048-524-1395

式次第 (平成22年度)

1. 開会のことば…熊谷市副市長
2. 拝礼
3. 国歌斉唱
4. 黙とう
5. 追悼のことば…熊谷市長、熊谷市議会議長、埼玉県知事、埼玉県遺族連合会会長、熊谷市遺族連合会代表
6. 献花…熊谷市長、来賓、遺族代表
7. 閉式のことば…熊谷市教育長

式辞 (平成22年度)

本日ここに、多数のご遺族並びにご来賓の皆様をお迎えして、熊谷市戦没者・戦災死没者追悼式を挙げるにあたり、先の大戦で亡くなられたすべての御霊に対し、謹んで追悼の誠を捧げます。

先の大戦において、多くの方々が国の内外において亡くなられたことは、私たちにとって永遠に忘れることのできない深い悲しみであります。ひたすら祖国の発展と家族の安泰を願いつつ、散華された方々の御霊に思いをいたす時、今なお痛惜の念が胸に迫ります。

また、最愛の肉親を失われたご遺族の皆様におかれましては、悲しみの中、幾多の困難を乗り越え、社会の発展のために御尽力くださった事に、心から敬意を表する次第であります。

戦後、国民は焦土と化した国土の中から立ち上がり、今日のような平和で豊かな国家を築き上げてまいりました。本市が享受している平和と繁栄は、戦没者、戦災死没者の方々の尊い犠牲とご遺族皆様方から寄せられました、ご支援、ご協力の賜物であります。

本市も、先輩各位、市民皆様の並々ならぬご尽力によって復興がなされ、県北の中核都市として、政治、経済、教育、文化等あらゆる分野において大きく発展してまいりました。

私たちは、戦没された方々の祖国発展の熱い思いを受け継ぎ、郷土熊谷を、「市民が誇りをもてるまち」「市民の笑顔があふれるまち」にするため、全力で市政に取り組んでまいります。今後も皆様には、一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

ここに、六十五年が経過した今でも決して消えることのない痛みと戦争の惨禍を後世に語り継ぎ、恒久平和の実現を積極的に進めることを、そして、住民福祉の向上に努め、心豊かに暮らせる郷土作りに邁進することを、戦没者、戦災死没者の御霊の前でお誓いいたします。

結びに、戦没者、戦災死没者各位の御霊が、永遠に安らかでありますことを、また、郷土熊谷の繁栄と平安を見守りくださることを願い、併せてご遺族をはじめ、ご参列の皆様方のご健勝と、ご多幸を祈念申し上げ、追悼のことばといたします。

平成二十二年十月十三日
 熊谷市長 富岡 清

戦没者供養 とうろう流し



開催概要 (平成22年度)

歳時名：戦没者供養 とうろう流し ※一般戦災死没者を含む
 会場：星川いこいの広場
 (JR熊谷駅 徒歩10分)

日時：平成22年8月16日(月) ※例年8月16日開催

参加者数：多数

連絡先：熊谷市観光協会(熊谷市商業観光課内) 048-524-1111 (代表)

式辞 (平成22年度)

本日、ここにとうろう流しを、とり行なうにあたり、主催者といたしまして一言ごあいさつを申し上げます。

昭和二十年八月十四日の夜、多くの尊い人命を奪い、私達の郷土を一夜にして焦土と化したあの悪夢のような惨事から、六〇年余りの歳月が経過いたしました。

今、悲惨であったあの焦熱地獄を想像するに誠に痛恨の情に耐えず、犠牲となられた方々の、無念のご心情はいかばかりかと、断腸の思いがいたします。

本市は、この八月十四日夜の「最後の空襲」によって、市街地の大半を焼失しました。しかし、その後、戦災復興土地区画整理事業により、この星川周辺は、立派な街並みを取りもどし、本市の顔として、重要な役割を果たしているところであります。

これらのことは、ひとえに、今はなき御霊の尊い犠牲と、ご加護のうえに築かれたものであり、深く哀悼の意を表しますとともに、御霊のご加護に深く感謝し、又、ひたすら復興に努力されました市民皆様方に対しまして、心から敬意を表する次第であります。

さて、私たち熊谷市民は、県内唯一の戦災指定都市の住民として、戦争の惨禍を二度と繰り返すことのない社会と人類の恒久平和を一日も早く実現するために、世界平和を願うすべての国の人々と手を携えることを誓い、本市を「非核平和都市」とすることを宣言しておりますが、ここに改めて、あの悪夢のような悲惨な出来事が、二度と繰り返されることのないよう更なる決意をいたしましたところでございます。

結びにあたりまして、心をこめてとうろうを流し、犠牲となられました御霊に対し、心からご冥福をお祈りくださいますようお願い申し上げます。

平成二十二年八月十六日
 熊谷市長 富岡 清

戦災者慰霊之女神



基本情報

所 在：星川いこいの広場
 住 所：埼玉県熊谷市星川1
 (JR熊谷駅 徒歩10分)
 連 絡 先：熊谷市 産業振興部 商業観光課 048-524-1111 (代表)
 建 立 者：慰霊碑建立奉賛会
 建 立 年：昭和50年8月16日

碑 文

慰霊碑 建立について

熊谷市は昭和二十年（一九四五年）太平洋戦争終戦前夜の八月十四日空襲をうけ 一夜にして当時の市の三分の二が焼土と化し二百六十余名の方が悲惨な最後を遂げました。特に市の中央部を流れる星川には一齊にあがった火の手に逃げ場を失った人人が飛び込み焼け崩れた家の下敷となり百人近い方が焼死しました。けれどもあの痛ましい戦災の記憶や思い出は年と共にうすれ忘れられてまいります。

よって被災三十周年を迎えるに當り由緒ある星川上に碑を建立して永く慰霊と平和を祈る灯といたします。

昭和五十年八月十六日
 慰霊碑建立奉賛會

平和地蔵



基本情報

所 在：上熊谷駅西側を通る国道407号線陸橋北側道付近
 住 所：埼玉県熊谷市本石2-200付近
 (JR上熊谷駅 徒歩5分)
 連 絡 先：不明
 建 立 者：熊谷市有志一同
 建 立 年：昭和32年1月

碑 文

熊谷厄除子育
 地蔵尊

碑 文

舌 代

顧るに昭和二十年八月十四日夜半より翌15日に亘り、吾が熊谷全市は火の海と化し、言語に絶する混乱状態となりたり。折しも星川の流に身を投じて避難せる人々は、両側に並ぶ家屋の焼落ちる火と火との間にて、哀れにも狂い死をなしたる者多大なり。又無残や大火傷を受け、薬石効無く遂に尊い一命を失った者驚く勿れ全市に於て其の数実に二百有余命なり。そのお気の毒な方々の最後を思いやり、情厚き全市有志の皆名様と共にここに平和地蔵尊並火伏地蔵と唱えて建立せしものなり、斯くのごとき死亡者の中には身寄り頼り無く不幸此の上も無き靈魂の為に何卒一片の香花を手向け下さる様御願ひ申し上げます。

昭和三十二年一月 熊谷市有志一同
 堂守 杵屋二十五代目 新井龍吉